

<p>教育事業名</p>	<p>平成 27 年度 国立室戸青少年自然の家教育事業</p> <p style="text-align: center;">ボランティアリーダー自主企画事業</p>	
<p>事業の趣旨</p>	<p>研修支援や教育事業及び業務においてボランティア活動を行う法人ボランティアを育成する活動のまとめとして、ボランティア自らが企画・準備・運営をする。企画事業を通して、ボランティアとして一つの事業を作り上げるスキルを身につける。</p>	
<p>対象者</p>	<p>小学 4～6 年生</p>	
<p>実施期間</p>	<p>平成 28 年 1 月 16 日（土）～平成 28 年 1 月 17 日（日）1 泊 2 日</p>	
<p>参加者 （人数／定員）</p>	<p>72 名／40 名</p>	
<p>活動プログラム</p>	<p style="text-align: center;">1 月 16 日（土）</p> <p>9：30 はりまや橋観光バスターミナル発 12：00 受付・オリエンテーション 12：20 昼食 13：00 開講式 13：20 アイスブレイキング 14：00 クエスト①～巨大すごろく 段ボールオブジェ作り～ 17：00 タベのつどい 17：15 夕食 18：00 クエスト②～暗闇探検～ 20：00 入浴・班会 21：15 就寝準備 22：00 消灯・就寝</p>	<p style="text-align: center;">1 月 17 日（日）</p> <p>6：30 起床・洗面・清掃 7：30 朝のつどい 7：40 写真撮影 7：45 朝食 8：20 退所点検・段ボールオブジェの片付け 9：00 クエスト③～ペットボトルロケット～ 11：00 野外炊事 13：00 感想・アンケート記入 閉講式 13：30 退所・自然の家発 16：00 はりまや橋観光バスターミナル着</p>
<p>活動の様子</p>	<p>○1 月 16 日土曜日（1 日目）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>高知県内の 10 市町村から小学 4～6 年生 72 名が参加して、本年度のボランティアリーダー自主企画事業「クエストキャンプ」が始まった。兄弟や同じ学校の友だち同士はあえて別の班にしていたので、班ごとに座った開講式ではどの顔からも緊張した様子が窺えた。</p> <p>続いて、中庭でアイスブレイキングを行った。手をつないで座ったり、ジャンケンの後いっしょに走ったりする中で、どの班にも笑顔が見られ、歓声が上がりました。</p> <p>心と体をほぐした後、中庭でさいころを振るところからクエスト①は始まった。9 つのミッションが用意されていて、それぞれクリアすると段ボールオブジェに使うことができるアイテムを手に入れることができる。けん玉や宝探し等、出会ったばかりの参加者同士が取り組みやすく会話のきっかけにもなるようなミッションや、シーツの早たみや箱の中身を 15 秒で記憶する等、班で協力しなければクリアできないミッションがあり、夢中で取り組む参加者の姿が見られた。全部回ることができなかった班のある男の子からは、残念だという言葉がしきりに聞こえていた。</p>	

次に、手に入れたモールや折り紙等も使って、班の仲間全員が協力して段ボールオブジェ作りに取りかかった。何を、どのように作るのか、分担はどうするか、話し合いながら作業を進める必要がある。自分だけの考えや希望を主張するだけでは進まない。相手の思いも受け入れ全員で考えながら決めていくのは、出会ったばかりの子どもたちにとっては易しいことではないが、リーダーの児童を中心に作業を進め、限られた時間内で片付けまで終えることができた。

夕食後のクエスト②は、暗闇探検の途中で出されたお題に取り組むと自分の班のオブジェの場所に行くことになり、それが光っていることを発見するという内容だった。出発する順番はその都度ゲームで決定し、外で出されたお題もみんなで歌を歌うなど、待ち時間や寒くて暗い夜道も楽しめるように工夫されていた。

○1月17日日曜日（2日目）



2日目は、まず昨日の段ボールオブジェを解体し、分別して片付けることから始まった。そして最後となるクエスト③は、班で協力してペットボトルロケットを作り、飛ばしてみるという内容だった。形や水量等、よく飛ぶためにはどうすればよいかを考えながら制作し、グラウンドで実際に飛ばしてみると、強風に助けられたこともあってどの班のロケットも滞空時間が長くなり、満足の得られる結果となった。

続いて野外炊事場へ移動して、持参した牛乳パックを使ってカートンサンドイッチを作った。できた班から、あらかじめリーダーが作っておいたミネストローネとゼリー、フルーツといっしょに食べた。班の友だちの牛乳パックもならべてあげたり、火が消えた時にはつけてあげたりと、ここでも助け合う姿が見られた。当初の予定と比べ人数が倍増したため、メニューや作り方を変更せざるを得なかったが、担当したリーダーがてきぱきと動いて、参加者が来るまでに予定どおりの準備を終わらせることができた。寒い野外での昼食だったが、温かい食事と楽しい会話でどの班もにぎやかに盛り上がっている様子だった。

1泊2日という短期間に様々な内容が盛り込まれた自主企画事業だったが、参加した子どもたちは疲れも見せず、前日とは全く異なる和やかな表情で閉講式に臨んでいた。住所を書いて交換したり、「もっとやりたい」と職員やリーダーに話したり、事業が終わってしまうことや、友だち、リーダーとの別れを惜しんだりする様子も見られた。多くの参加者が、新たな友だちができて2日間がんばった自分を実感しているようだった。

事業の成果

「とことんチャレンジ！いろんな自分に出会うまで」というサブテーマのように、「新しい友だちができた」「あきらめずにみんなで最後までがんばれた」等、肯定的な感想が多かったことから、ボランティアリーダーが目指していた「参加者自身が自己の可能性に気付く」ことは成し遂げられたのではないと思われる。いろいろな場面で、参加者が話し合ったり協力したりしながら、積極的に課題に取り組んでいる姿が見られた。参加者の興味が持続するよう、ボランティア達が工夫を重ね、4ヶ月の間準備をしてきた成果だと言える。

<p>事業の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初企画した段階からたくさんのお話をねらいすぎだったので、かえって分かりにくくなってしまっていた。ねらいをもっと絞り、それを達成するために、個人は、集団は何を目標とするのか、すっきりと整理した上でチラシを作成したり活動を計画したりすべきである。 ・例年オリエンテーリング的な内容や野外炊事等、同じような活動になってきているので、今後は、活動場所や内容など若者らしい大胆な発想を期待したい。 ・事業を安全に実施するために、子どもたちの様々な動きを予想して対策を講じておき、適切な指導をする必要がある。
<p>参加者の感想</p>	<p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて参加したけど、班でクエストをやっていくのは楽しかったし、班の人全員知らなかったけど、クエストをやっていくうちに仲良くなって、たくさん楽しくなりました。 ・すごろくや暗闇探検をやっているのと、仲間がいないと乗り越えられないということが分かりました。 ・ペットボトルロケットを作って終わったときに、羽根とかががっしりしてなくてでこぼこになっていて、遠くまで飛ばないかなと思ったけど、みんなで協力してとばしてみると、本当に一番遠くまで飛んだので、思わず班の人とタッチしました。みんなで協力すると、やっぱりその分いいことが起こるのだな、と分かりました。 ・オブジェを作るのが一番楽しかった。いろいろ悩んでリーダーに相談したときもあったが、みんなといっしょにアイデアを出しながら、協力して作ることができた。 ・私が活動を通して成長したことは、みんなとまとまって行動、活動する力です。私はみんなで活動するのがちょっと苦手でした。班には進めてくれる人が多くて、助けてくれる人もいました。そして自分もいろいろな事ができるようになりました。これからは、もっと団体活動を好きになるようにしたいです。 <p>【ボランティアリーダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回企画事業に参加して、何か月も前からミーティングを重ね、自分たちで一つのものを作り上げることの大変さを実感した。それでも、最後に子どもたちが楽しそうにしている姿や「楽しかった」という言葉を聞くと、良かったなと思え、本当に嬉しかった。達成感を味わい、また来年も参加したいなと思った。大変な時もあったが、企画事業に参加して本当に良かった。 ・去年に引き続き、この企画事業にグループリーダーとして参加した。去年の企画事業では先輩方よりたくさんのお話を教わったので、今回それを活かしたいと思ったからだ。 <p>あっという間の2日間で、子ども達も全ての企画を楽しんで帰ってくれたと思う。子ども達の笑顔を見ると、やっぱりこのために頑張ってきたのだと思えた。書いてくれた感想にも「班の人と協力できた」「学校ではふざけてしまうけど、班の中ではみんなを引っ張っていった」などの言葉があり、本当に嬉しかった。準備や本番を通して、全体にも個人にもたくさん課題は残ったけど、私は今回この企画事業に参加して良かったと思っているし、この経験をまたどこかで生かしたいと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢に対してねらいが達成可能なものであったか、評価基準として準備していたワークシートが適切なものだったか、疑問が残る。参加者の年齢層や人数に対して、ボランティアリーダーの人数が足りないところも見られた。ボランティアリーダーとして、全員が豊富な経験を持っているわけではないのに、その対策を十分にとることもできていなかった。今回の企画事業では、多くの反省と課題が残ってしまったが、細かい反省点も含め、次年度に引き継ぎたい。

